

「にわか雨、ときたま雨宿り」

登場人物

西村大輔 ーにしむらだいすけー (30)
沢木 稔 ーさわきみのるー (40)
西村 静 ーにしむらしずかー (32)
上谷麻衣 ーかみやまいー (15)
沢木克巳 ーさわきかつみー (45)
沢木美奈 ーさわきみなー (40)
細野 正 ーほそのだしー (24)
相川裕二 ーあいかわゆうじー (30)
上谷大吾 ーかみやだいごー (70) 劇中に登場せず

高名な画家、上谷大吾の家の庭

奥に和風の母屋があり、上手側手前にかけて橋掛かりのように縁側が伸びている庭のほぼ中央に年季の入ったガーデンテーブルと、それを囲むように椅子が3脚下手寄りに物干し
下手手前から、庭から直接玄関先へ廻れるようになっていて

1

9月の終わりの日曜日

午後2時過ぎ

明転

幾つかの洗濯物が干してある

椅子に沢木稔が座り、西村大輔が縁側近くに立っている

大輔 俺、一回来たかったんですよ

稔 そうなの

大輔 でも意外と近いんですね 勝手にもっと遠い気がしてました イメージで

稔 田舎でしょ

大輔 思った通り、やっぱ凄いや家ですねえ

稔 無駄に広いよね

大輔 こんなところにこんな家があるんですねえ なんか…あ、ほら、昭和の探偵とかが調べに来るみたいなの

稔 (笑って) 悪い奴が住んでる

大輔 (まじまじと家を見て) まだ部屋全部見れてないですよ俺

稔 静ちゃんと結婚した時は？「娘さんを僕にください！」とか何とか云いに来なかったわけ？

大輔 あ、そういうの来なくていいって云われたんです

稔 あの人に？

大輔 はい 今は自分の責任で生きてるんだし、それに静が選んだ人なら誰でもいいって（笑って）あの人らしいわ

大輔 勿論、式で会った時に挨拶はしたんですけど

稔 あ、来たんだ？…何か云われた？

大輔 特に…っていうか何にも

稔 （笑って）だろうなあ

大輔 稔さんは？ここにはちよくちよく？

稔 まさか！俺は小1まで

大輔 え、それつきりですか？

稔 （笑って）何しに来んの？

大輔 いや…

稔 俺の母さんと別れた後にカミサン二人も変えて、そのたんびにガキ作っちゃってんだよ

大輔 まあ

稔 絵描きってそんなにモテんのかねえ？

大輔 本当っすよねえ

稔 ま、別に知ったこっちゃないけど

大輔 稔さんは結婚してるんですか？

稔 え、俺？まさか！…（笑って）なんか久しぶりにちゃんとした大人みたいなこと訊かれたからびっくりしちやっただよ

大輔 （笑って）じゃ彼女とかは？

稔 いないねえ どこ探してもいないねえ 俺さ、あんまり人に好かれないからさ

大輔 そんな…どれくらいいいんですか？

稔 かなりいいよ もういつ女の前でパンツ脱いだか忘れちゃったわ

大輔 （笑って）じゃ…風俗とか結構…

稔 行かない行かない 俺そんなとこ通う金なんか無いもん

大輔 え、じゃどうすんですか？

稔 何が？

大輔 だって…そんなのきつくないっすか？

稔 自分でやりやいいじゃん

大輔 まあそうですけど

稔 自分でやんのが好きなんだよね俺

大輔 あ、でも俺も好きっすよ
稔 え？結婚してもやるもん？あれ
大輔 (笑って) んーなんかやってますねえ
稔 大輔くん達は結婚してどんくらいなんだっけ？
大輔 えーと…3年目です
稔 あんな可愛いカミサンがいてもねえ
大輔 あれは別ですわねえ
稔 やっぱそっかあ…でもさ、あれって幾つくらいまでやるもんかな
大輔 (笑って) えー個人差とかありそう
稔 俺は…50とかまでやっちゃってるな
大輔 50か…
稔 いや、もったかな…もつとだな…60いっちゃやうかな…
大輔 なんかりアルな数字っすね…
稔 だよ
大輔 でもやってる男いますね絶対
稔 絶対いるよ、間違いないね あれ？待てよ…ってことは、俺とか産まれた後にもや
つてたのか？…あの人も(家のほうを見て)
大輔 え…(笑って) かもしれないっすねえ
稔 うわ！きついなそれ 想像しちやったよー
大輔 (さすがに家を気にして) いやいや、ちよつと止めときましようよ…
稔 (頭を振って) 画が…画が…
大輔 (笑って) でも、もし死んじゃったら…あ、いや、亡くなったら、この家とかどう
するんですか？
稔 さあどうすんだろ 母一人子一人じゃ広すぎるっつうんだよなあこんなの(笑って)
あ、もう一人いるのか
大輔 もう一人？
稔 なんかね、弟子つてのが一緒に住んでんのよ
大輔 あ、絵の？
稔 そうそう 俺も今朝ちらつと見かけたただけけどさ、まだ若い子よ ありや大輔く
んより若いんじゃないかなあ
大輔 …弟子か
稔 いいご身分だよ
大輔 …
稔 …どしたの？
大輔 え…あ、いや…稔さんって仕事は何してるんですか？
稔 俺？解体業 もう長いよ

大輔 へえー

稔 若い頃はこれでも接客とか色々やったけどさ、結局一番いいよ土方が 氣い使わなくて、金もいいし

大輔 社員で？

稔 何云っちゃってんの アルバイト歴20年よ俺

大輔 就職しないんですか？

稔 (笑って) んー40にもなっちゃ就職するったつてもはやねえ…第一そんな甘くないわけですよ世間は

大輔 (笑って) なんか他人事

稔 そうそう、風の吹くまま気の向くまま…あーあ、いらねえ血だなこればかりは

大輔 自由人って感じっすね

稔 お、いいねえそれ

大輔 でもなんか分かりますよ

稔 大輔くんは？何してんの？仕事とか

大輔 俺、美容師です

稔 何だよそれ、自分は手に職じゃん(笑う)

大輔 そうなんですけど

稔 何だよ、強えなあ…ん？今日いいの？日曜なのに

大輔 そりゃ休み取りましたよ お父さんが大変なんですから

稔 いつ死ぬか分かんないとか云われたらね

大輔 やっぱり…かなりヤバイんですか？

稔 医者がさ、癌の転移が広がっちゃって二進も三進もいかないつつつてんのに、自宅ですたばるっていつて聞かないんだって(笑って) ったく、最後まで周りに迷惑かけやがってさ

大輔 俺はもしクビになっても免許あるんで 店なんて幾らでもあるし

稔 いいねえ、その考え方がいい!

大輔 西村静、少し前に縁側より顔を出し、二人のやり取りを聞いている

稔 (気づいて) あ、どうもー

大輔 何?(縁側のほうへ)

静 ううん 何してたの？

大輔 (笑って) 何って、稔さんと話してた

静 …大変な時だからあんまりご迷惑掛けないでね

大輔 掛けてないよ、迷惑なんて

静 …(稔に) あの私、ちよつと夕飯の買い物に行ってきますから、後宜しく…

稔 ご苦労さまでーす!

静 …いえ

稔　　しつかしよく働くねえ　感心しちゃう
静　　そんなこと無いです
大輔　ねえ今日は何作んの？
静　　何か食べたいのがある？
大輔　んー…稔さんは？
稔　　え？
大輔　何がいいですか？晩飯
稔　　俺？
大輔　食いますよね？
稔　　…考えてなかったけど　俺はどうとでも…
大輔　でもどうせ食うんですよね？
稔　　そりや晩飯は食うけど
大輔　（静に）中華なんていいな、エビチリとか　皆で食えんじゃん
稔　　…（笑う）
静　　分かった（稔に）じゃお願いします
稔　　はーい
大輔　気をつけて
静　　うん
　　　　静、家の中へ
　　　　少しの間
稔　　仲良いんだね
大輔　そうっすか？（笑って）…まあ
稔　　（笑って）偉いよなあ　もう何日かここに泊り込んでんだよね
大輔　はい、あいつは　もう4日くらいになるかな
稔　　大したもんだよなあ　鑑だね、子の
大輔　（笑う）
稔　　めちやくちや可愛いよねえ　あんな子だったら結婚してもいいなあ
大輔　…（笑って）妹なんですよね
稔　　んーでも育ったの完全に別々だし、妹って云われてもなあ…だって初対面だよ、初対面（笑う）
大輔　そうですよね
稔　　大体あんな可愛い子、絶対俺とは遺伝子が違うよね…母親だな
大輔　あ、でも静、お母さんとそっくりなんですよ
稔　　（笑って）やっぱり？
大輔　見た目も姉妹みたいなんですけど、中身も瓜二つっていうか…余計なこと喋らなく
て、家事でも何んでも黙々とやるし、料理の味付けまで同じだし

稔 へえー、よく会ってるの？

大輔 一緒に住んでます ちよつと体調壊してるけど

稔 え、大輔くんも一緒？

大輔 俺、婿養子だから

稔 あ、マスオさんなんだ

大輔 身寄り無いんですよ俺 ガキの頃、親両方死んじゃってて…親戚も兄弟もいないし

稔 そうなの？意外と苦労してんだなあ

大輔 いやあそんなこと無いっすけど

稔 色々あるよなあ皆

大輔 稔さんのお母さんは？

稔 ん？

大輔 稔さんの

稔 …死んだよ

大輔 え

稔 うん、もう10年になるかな

大輔 …そうなんですか

稔 (笑って) っていうか、朝から晩まで働き詰めだったからな 苦労ばっかりして、

例句に最後は体壊して…生きてて何が楽しかったんだろうって思うよ

大輔 え、でもお父さんから慰謝料とか…

稔 (笑って首を振り) 金なんかいるか！って

大輔 え、一切貰ってないんですか？

稔 …そういう性格だからさ、それが逆に仇っていうかさ

家の中から電話のベルが聞こえる

少しの間

大輔 …電話っすよ

稔 うん、出て

大輔 俺が？

稔 そうそう

大輔 俺この人間じゃ…

稔 いいのいいの 身内なんだから

大輔 でも何か家のこと訊かれても、俺じゃ分かんないし…

稔 留守番だからちよつと分かりませんか適当に云っとけばいいよ あ、今取り込み

中だから後で連絡させますっつって連絡先だけ聞いて

大輔 …はい

大輔、縁側から家の中へ

間

稔、立ち上がって縁側へ近寄っていくが、何か思い直したように背を向ける
そのまま物干しへ

上谷大吾のものと思われる下着や肌着とともに干されている、女物の服や下着に
も目が留まる

稔
：

大輔 (戻ってきて縁側から) あの…

稔 (驚いて) え！

大輔 え…何ですか？

稔 …何も

大輔 サワキカツミさんって人なんですけど

稔 嘘！…

大輔 あ、知ってる人ですか？

稔 …誰もいないって云って 皆出ちゃったって

大輔 え、いいんですか？

稔 いいのいいの

大輔 もしお父さんの急ぎの用とかだったら…

稔 違うよ、もうくたばりかけてんだから

大輔 平気ですかね

稔 いいのいいの

大輔、いぶかしげに再び中へ

制服姿の上谷麻衣、その二人の様子を見ながら下手手前より庭へ入ってくる

麻衣
：

稔 (麻衣に気づき) お、おかえり！もう終わったの…？

麻衣 …あの人は？

稔 ああ静ちゃんの旦那さん

麻衣
：

稔 びっくりしたな いつも庭から帰ってくるの？

麻衣 …だいたい

稔 (小さく笑って) だよね、ここん家って 俺もさ…

麻衣
：

稔 早かったね あれ？学園祭だったんでしょ？

麻衣 はい

稔 いいねえ学園祭とか 思い出の1ページって感じだよね

麻衣 そうなんですか？

稔 そうなんですかって…（笑う）
麻衣 学校の行事ってだけだから
稔 ……
麻衣 またすぐ出掛けるんで
稔 あそ あ、彼氏と？
麻衣 ……
稔 そうだよねえ、デートのほうが楽しいよねえ 同級生？先輩？…まさかの後輩？
麻衣 ……お父さん、どうですか？
稔 分かんない 全然見てないから（笑う）
麻衣 ……
間
稔 お母さんってさ、今どこに行ってるんだっけ？
麻衣 ロスです
稔 へえー、かっくいー
麻衣 ……
稔 仕事で行ってんだよね
麻衣 はい
稔 何だっけ？ガ…シヨオ？だっけ？
麻衣 画商
稔 そっか…
麻衣 ……（縁側から家の中へ入ろうとする）
稔 なんかき、いっぱい押し掛けてきちゃって悪いね
麻衣 （足を止め）別に…皆もともとここに住んでたんですよね？
稔 （笑って）…そうだね
麻衣 お父さんの子供なんだし
稔 （笑って）一応
麻衣 一緒だから、麻衣と
稔 何て云うんだろ…こういうのってさ、理解出来る？
麻衣 どういう意味ですか？
稔 意味っていうか…
麻衣 解ってます
稔 あそう 大人だねえ
麻衣 子供だから？
稔 え
麻衣 子供だから何も解ってないと思うんですか？
稔 いや…

麻衣 全部解ってるんですか？

稔 え？

麻衣 大人は

稔 ……

麻衣 子供だった時のことって忘れちゃうんですか？

稔 ……(笑って) そうかも shouldn't

麻衣 それに麻衣はもう子供じゃないし

稔 ……ああそうだよね、もう中3だっけ？

麻衣 16です、もう少しで

稔 え……そうだよね 16っていったらね、もう……原チャリだつて取れるし、バイトし

たつて平気だもんね

麻衣 はい？

稔 いや……(笑って) なんか急に子供じゃないとか云うから、おじさん変なこと考えち

やつたじゃないの……馬鹿だねえ

麻衣 そういう意味ですけど

稔 ……はい？

麻衣 子供じゃないってそういう意味です

稔 ……は？嘘！……マジ……？

間

大輔、縁側に戻ってくる

大輔 (麻衣を見て)……？

麻衣 (稔に) じゃ私、着替えるから (大輔に軽く会釈し家の中へ)

稔 ……

大輔 え……誰ですか？

稔 ……あの人の今の娘 麻衣ちゃん

大輔 今の……(庭に下りる)

稔 (深い溜息)

大輔 あ、サワキさんってお父さんの息子だつて云つてたんですけど……

稔 そうだよ 俺、沢木稔

大輔 え

稔 俺の兄さん

大輔 なんだ……早く云つて下さいよ どなたですかつて訊いたら「そちらはどなたです

か？」って逆に訊かれちゃつて

稔 (笑って) そりゃまあそうだな

大輔 つていうか、まだいるんですしたっけ？

稔 ん？

大輔 兄弟

稔 (笑って) ああこれで打ち止めよ 兄さんと俺と…二番目のカミサンの子が静ちゃんで、今のカミサンの子が麻衣ちゃん

大輔 でも…凄いお父さんですよ

稔 種馬だな、殆んど

大輔 今の奥さん、海外行ってるんでしたよね？

稔 ガシヨ

大輔 何ですか？それ

稔 だからあれだよ…絵売ったり買ったりしてんだよ 年の半分は海外行って売ったり買ったりするやり手みたいだから、今も穴空けられないんだって

大輔 お父さんのこういう時でも、そういうもんなんですかね？

稔 よく知らんけど、俺も…急に連絡来て初めて話したし

大輔 自分が忙しい分、最期にせめて子供達にはってことか

稔 …それで兄さん何だった？

大輔 あ、そうそう 今駅からタクシーでこっちに向かってるって

稔 マジ？…俺どつかフケようかな

大輔 え、会いたくないんですか？

稔 ーあんまりね 俺いるって云った？

大輔 云いましたよ

稔 アイター

大輔 でも今出掛けてるって

稔 あ、そっかそっか サンキュ

大輔 お兄さんとも久し振りなんですか？

稔 (笑って) 久し振りつつうか この前電話でちよろつと話したけど…会ってもないなあもう随分…母さんの七回忌の時以来か、用無いし

大輔 …何やってる人なんですか？お兄さん

稔 (笑って) 弁護士

大輔 あ、へえー

稔 弟と違って、出来がいい兄つつう分かりやすい設定なのよ 昔からずっと

大輔 何て云うか…結構複雑な感じっすよねえ

稔 そう？ま、俺はずっと爪弾きってやつね

大輔 爪弾き？

稔 俺はほら、母親の遺伝子だから そっちの血なの

大輔 でも俺、稔さん好きですけど

稔 え

大輔 そのゆるい感じ

稔 ゆるい感じ？（笑う）
大輔 話し易いし
稔 …君、貴重な人だったりするねえ そんなこと云う奴滅多にいないよ
大輔 そうっすか？
稔 大輔くん、麻雀やる人？
大輔 やりますよ
稔 あ、じゃ今度一緒に行こうよ 行きつけの雀荘があるんだけどさ、そこいのよ 安
大輔 えーいいっすね マジ行きましようよ
稔 じゃ明日行く？今日でもいいけど
大輔 え、それはちよっと…
稔 仕事？
大輔 いや…仕事とかそういうんじゃない
稔 何？
大輔 今二人して麻雀打ちに行くっつうのは、さすがにまずくないですか？
稔 なんて？
大輔 え
稔 何が？
大輔 いや、だって…
稔 まずいの？
大輔 まずい…ですよ
稔 なんて？
大輔 だから…（家のほうを見る）
稔 （笑って）今日明日の話じゃないって どうせしぶとんだから…っっていうか別に
さ、ここでお行儀良く死ぬの待ってたからってどうなのよ
大輔 えーでもやっぱこういう場合…いやいや、一瞬俺が変なのかって考えちゃったじゃ
ないっすか
稔 …大輔くんってさ、もしかしてあれ？
大輔 はい？
稔 あの…「みなしごハッチ」とか「母を訪ねて三千里」的なさ、ああいうの弱いのか？
大輔 あ、弱いっすねえ 俺、親死んでからそっち系見れないっすよ
稔 なんて？
大輔 …はい？
稔 ムカつくんだよね 誰が親なんか訪ねて三千里旅するかっての
大輔 …
稔 …する？そんなめでたいこと

大輔 どうかな

稔 12000kmだよ

大輔 へえー

稔 寧ろ清々するわ

大輔 …

稔 しかも猿連れてんの

大輔 (笑って) あれって猿でしたっけ？

稔 何云ってんの、猿だよ 肩に乗っちゃうくらいの小さいやつ

大輔 あーはいはい

稔 パンダみたいな顔しててさ

大輔 詳しいですよね稔さん

稔 …え、だってそんなの

大輔 詳しいくないっすか？

稔 …大輔くんもさ、若いのによく知ってるよね、俺の世代のアニメなのに

大輔 あ、俺、上の人の話とか強いんっすよ ずっと年上に囲まれて育ったんで 昔から

年上好きだし

稔 (笑って) そこちよつと違わない？

大輔の携帯が鳴る

大輔 あ、ごめんなさい…(出る)はいもしもし…おうどうした…そうそう今来てんだよ…え、

マジ?…今どこ?…おいしいなそれ…バーカ、何云ってんだよ、ハハハ…(少し稔

を気にし、立ち上がって庭の隅へ)

家の中から玄関のベルが聞こえる

稔 あら…(大輔を見る)

大輔 (電話に) どうすっかな…ん?いや、別に忙しいって訳でもないっというか…うー

ん

再度ベルが鳴る

稔 まいっっちゃったな…

稔、立ち上がり下手手前より出ていく

大輔 (それを横目で見て電話に) っていうかさ、なんか複雑なんだよここん家…うん…いやさ、だからもうすぐ死にそうなんだよ…え?決まってるんだろ 実の娘だぜ静…そ

うそう、名前くらい知ってるだろ、上谷大吾…知んないの?…まあ俺もよく分かる

ねえけどさ、とにかく絵描いてんだよ…そう…知らねえけど相当なんじゃないの?

有名な人らしいからな…(笑って) まあな…分かった、じゃ行くよ今から…だって

俺に会いたいわっつてんだろ?…え?…平気だろ、俺はここにいるも何やってるっ

て訳でもないし…全然、1時間ちよつとかな…直接店行けばいいよな…うん、じゃ

後で(切る)

台詞の最後に被って、下手手前より稔、少し後に続いて沢木克巳と美奈が入ってくる

稔 ……(面倒そうな顔で適当な椅子へ)

克巳 お前、出掛けていたんじゃないのか？

稔 今ちょうどね

克巳 いつ来たんだ？

稔 今朝

克巳 来たばかりで何をフラフラしてるんだ

美奈 (庭に入ってからずっと大輔を見たまま、稔に) こちらは？

稔 あ、静ちゃんの旦那さん

美奈 (笑顔で) こんにちは

大輔 あの、西村大輔です

克巳 もしかしてさっき電話に出た方ですか？

大輔 あ、そうです俺…すいませんでした

克巳 いえ 上谷大吾の息子の克巳です 今は沢木という姓ですが…それでこっちは家内の…

美奈 私、美奈 宜しく

大輔 あ、宜しく

克巳 (稔に) 父さんは？

稔 さあ

克巳 ……さあって何だ

大輔 あの、俺ちよつと…出てきていいですか？友達が急にちよつと

稔 いいよいいよ全然

大輔 すいません(克巳と美奈を気にしつつ、下手手前より出て行く)

美奈 (笑顔で手を振る)

克巳 会えるのか？父さんは

稔 (縁側を指差し) 行ってみればいいじゃん

克巳 話せるか？

稔 死んでなきやね

克巳 ふざけたことを云うな いい加減歳を考えろ

稔 (笑う)

克巳、縁側から家の中へ

美奈 ねえ今の彼、幾つ？

稔 え？ああ、んー2…28とか云ってたな

美奈 そうなんだ

稔 なんだ？

美奈 別に
稔 (美奈をまじまじと見る) …
美奈 何？
稔 (笑って) 変わんないよね、美奈ちゃん
美奈 そう？
稔 うん、相変わらず
美奈 それどういう意味？
稔 んー色んな意味… (笑う)
美奈 (笑って) 何それ
稔 でも本当久し振りだね
美奈 そうよね
稔 どう？最近は何？
美奈 別に 同じ
稔 そうですか
美奈 来たんだ、稔さん
稔 え
美奈 いると思わなかった
稔 …
美奈 だって昔からさ
稔 金欲しいじゃん
美奈 お金？
稔 そりゃそういうことになるでしょ てめえの好きにやっつけてきやがって、最後まで
はさ そんならしいの権利はあるよね
美奈 …まあね
稔 はつきりさせないとさ (笑って) ほかに何があんのよ
美奈 …稔さん、女出来た？
稔 え？出来る訳ないじゃん
美奈 そうなの？
稔 もうずっとだよ あれ以来いないもん
美奈 嘘
稔 本当本当 女なんていたらさ、こんなどこ来てないよ
美奈 (笑う)
克巳、縁側に戻ってくる
克巳 (美奈に) おい、お前も顔を見て来い
美奈 はい
克巳 奥の突き当たりの襖の部屋だ

美奈 襖の部屋

美奈、縁側から家の中へ

克巳は庭に下りて、稔とは離れた椅子へ

稔 生きてた？

克巳 …お前は どうして そうなんだ

稔 そうって？

克巳 いつまで そんな態度で いるつもりだ

稔 どんな態度？

克巳 そんな態度だよ

稔 (笑って) いたって普通じゃん俺

克巳 どこがだ

稔 俺は元からこんなんだよ

克巳 そうじゃなかっただろ

稔 話せたの？あの人と

克巳 …いや、眠ってた

稔 まだ息してた？

克巳 何？

稔 まだ、息してた？

克巳 ふざけるのもいい加減にしろ

稔 俺は真面目に訊いてんだよ

克巳 本気で云ってるのか

稔 (笑って) 本気だよ 全部本気

克巳 嘘をつくな

稔 じゃあさ、自分は本気で喋ってるの？

克巳 何？

稔 兄さんはいつも本気で喋ってるの？

克巳 当たり前だろ

稔 へえーそうですか

克巳 どういう意味だ？

稔 じゃあの人にも本気で話すんだろ？

克巳 何を云ってるんだお前

美奈、縁側に戻ってくる

稔 親父殿が自分の勝手気ままに生きてくれたので、お陰さまで僕はこんなに窮屈に生きる事が出来ましたって云うんだろ？うな、本気で

克巳 …お前の云い草は、おもちやを買ってもらえなかった子供がいつまでも泣き言を云っているのと何も変わらない

稔 お陰で弁護士になれました、ありがとうございますって云うんだらうな
克巳 俺は自分の意志で法律家になったんだ
稔 美奈ちゃん、この人いつも本気で喋ってる？
美奈 (笑って) さあ
克巳 馬鹿なことを云うな
稔 俺はもうずっと前から兄さんが何考えて生きてんのか分かんないのよ 兄さんって人間がさ
克巳 何の話だよ
稔 いや、寧ろ尊敬してるよ 母さんが倒れた時も死んだ時も顔色一つ変えないでさ、病院のことも葬式のこと、まるでロボットみたいにきちんとやってくれたもんな
克巳 お前に俺の何が分かるんだ？
稔 だよね…(笑って) もういいや
克巳 どういいんだ
稔 これからもさ、お互い思うように生きていきましようよ
克巳 …俺が無理して生きてるとでも云いたいのか？
稔 (庭の入り口へ) おかえりー
静 買い物袋を下げた静、上手手前より庭へ入ってくる
静 あ
克巳 あの、あなた…静さんですか？
静 はい 話し声が聞こえたので…あの…
克巳 私が昨日お電話した、沢木克巳です
静 あ…私、西村静です(頭を下げる)
克巳 えーと…(見廻して) あそこにいるのが家内の美奈です
美奈 こんにちは
静 (頭を下げる) 初めまして
克巳 すみませんね、父の世話をしてもらって
静 いえ、私の父でもありますから
克巳 …そうでしたね
稔 (笑う)
克巳 今回父がこういうことになって、父に対する気持ちは、こうして顔を揃えた我々は皆同じだと思ってます
稔 そうとは限らないじゃん
克巳 (無視して) スタッフに仕事を引き継ぐのに少々時間がかかってしまいました、何とか区切りをつけられましたので、とりあえず今日からは父の身の回りのことや家事やなんかも、私も妻も手伝いますので
静 ありがとうございます

克巳 いえ、私も一応長兄として、決して静さんだけに負担をかけてしまわないよう出来る限りのことをさせてもらいます

稔 (笑って) おーおー (拍手)

克巳 …

静 あれ… (改めて庭を見廻し、稔に) 大輔は…?

稔 なんかね、友達から電話掛かってきて出掛けたよ、さっき

静 こんな時に…

克巳 あの、ご主人にはさつき会えたのでご挨拶は済ませました

静 そうですか…すみません

静、物干しに目を留め、そこに干されている女物の洗濯物を取り込み始める

克巳 …自分のお家のほうは大丈夫なんですか? 何日もこっちに來てしまつて

静 はい 今は側についてあげたいっていうか…私が物心ついた頃にはもうお父さんはいなかったの、今まで娘として親孝行もしてないですし

稔 逆、逆 向こうが親らしいことをしてないんだよ

静 …でもずっと私たち母娘を援助してくれましたし、私の結婚式にも出てくれたし…母も私がおこに來ていることを納得してくれていますから

克巳 そうですか

静 本当は母も來たがつていたんです でも今ちょっと病氣していて…それに自分が行くと角が立つだろうから

克巳 父とは話せました?

静 (頷き) ほんの相槌程度ですけど

克巳 それはよかった

着替えて、化粧をした麻衣が縁側に顔を出す

麻衣 あの…

克巳 あ…もしかして麻衣ちゃん?

麻衣 はい

美奈 (麻衣の顔を見て) えー可愛いもの、お化粧しちゃって (笑う)

麻衣 …

克巳 おい

静 麻衣ちゃん、帰つてたの?

麻衣 …はい

静 ごめんね、私買い物に行つて

麻衣 別に (静と目を合わそうとせず庭へ)

少しの間

静 (克巳に) じゃ…私、先に晩の支度を始めます

克巳 あ… (麻衣を気にして) すぐに私達も行きますので

静 いえ…ありがとうございます 大丈夫なので
静、取り込んだ洗濯物と買い物袋を持って下手手前より出ていく
麻衣、静から距離を置くように
美奈 (麻衣に) こんにちは
麻衣 …こんにちは
克巳 麻衣ちゃん…大きくなったね
麻衣 …
美奈 覚えてる？私、あのおじさんの奥さん
麻衣 (首を振る)
稔 (笑う)
克巳 …小さかったもんね
美奈 どこか出掛けるの？おめかしして
麻衣 ちよつと
稔 デートだって
克巳 え
美奈 へーいいなあ
克巳 (うろたえて) 麻衣ちゃん、もう何年生になったのかな？
麻衣 中3です
克巳 そうか、もう中3か じゃ来年受験だね
麻衣 …
克巳 悪いけど、僕達もしばらくこの家でお世話になろうと思ってるんだ
麻衣 構わないです
稔 俺はそんな気無いよ
克巳 え？
稔 駅前のビジネス取ったから
美奈 そうなの？
稔 (笑って) 当たり前じゃん、なんでここに泊まんなきやいけないの
美奈 つまんないの
稔 様子見に來ただけだから もうすぐおっ死ぬんならつて
克巳 (麻衣を気にし) 稔
稔 …何だよ
克巳 お前は勝手にすればいい
稔 云われなくてもそうさせてもらおうよ
美奈 (稔に) 遊びに行つていい？
稔 …は？(笑う)
克巳 …(目を逸らす)

少しの間

克巳 麻衣ちゃん：何と云うか、こういうのは君には理解し難いだろうと思うんだけど…
麻衣 何がですか？

克巳 つまり：気にしないでほしいというか、君には関係のないことだから：あ、いや、
勿論関係はあるんだけど：こういう関係は無いんだというか

麻衣 はい？

稔 何云ってるの？

克巳 だから君は一応：つまり戸籍上では別になっているけど…（稔を示し）でもあれと
も僕とも、君は血がね、繋がっている訳で…

稔 （笑って）あれってご挨拶だな

麻衣 分かっています

克巳 そうだよ、分かっているよ

稔 分かっているの、そんなことは

克巳 （無視して）所謂君は僕の妹という形になる訳で：あ、勿論育ってきた環境はまる
で違うんだけど：要するにどう云うのか：君は中3で僕はもう45な訳なんだが…

稔 何云ってるのかさっぱり分かんねえよ

麻衣 （小さく笑う）

克巳 だから君と：一度きちんとゆくりとね、こう：話したかったと云うか…ね

稔 麻衣ちゃん口説いてんのか？おじさん

克巳 お前は黙ってる

稔 （笑う）

美奈 あなたって若いのに妙な色気があるわね

麻衣 え

美奈 もう処女じゃないでしょ

克巳 （慌てて）馬鹿！何を云ってるんだ

麻衣 …

美奈 （笑って）ごめんごめん

稔 （笑う）

克巳 麻衣ちゃんごめんね

麻衣 別に

稔 いいじゃん 別に悪いことしてる訳じゃないんだからさ

克巳 うるさい

稔 中3を舐めんなよ

克巳 黙ってるって云ってるだろ

麻衣 平気です私

美奈 麻衣ちゃんの彼氏ってさ、どんな人なの？

麻衣 ……
美奈 同級生？…格好いい？
麻衣 ……
美奈 もしかしてさ、すごい大人の人なんじゃない？
麻衣 なんですか？
美奈 だって麻衣ちゃん、もう大人の目をしてる
麻衣 ……
美奈 迷いが無さそうで…でも少し諦めてて…ちよつとだけ淋しい目
麻衣 ……
美奈 私もそうだった（笑う）
麻衣 ……
美奈 会ってみたいな、麻衣ちゃんの彼氏
正 スケッチブックを抱えた細野正、下手手前より入ってくる
正 うわ、なんかいい感じ
麻衣 おかえり！（正に近寄っていく）
正 ただいま（麻衣の頭を撫でる）
稔 ……
克巳 ……
美奈 ……
麻衣 （一同に）お父さんのところで勉強してる正…細野正さんです
克巳 ああ君が…
正 （見廻して）えーと…（麻衣に）皆先生の子供？
麻衣 うん
正 凄いな 勢揃いだ
美奈 （笑顔で正に）絵のお弟子さん？
正 ……まあ
美奈 そうなの
正 （人数を数える）1、2、3、4、5
美奈 あ、私は違うのよ 私はあそこにいるおじさんの奥さん
正 そう
克巳 私、長男の沢木克巳です
正 どうも
克巳 話はね、聞いていたよ ここにはいつから住んでいるんですか？
正 えーつと7年くらい
麻衣 ね
克巳 そうか そんなになるんですか

正 (麻衣に) 先生は？絵見せられる？
克巳 あ、今はちよつと…ぐつすり眠っているから
正 そっか
麻衣 後で一緒に行こ
正 うん
正、諦め縁側に腰を下ろす
彼は常に微笑んだような表情
麻衣、正を追うように隣へ並んで座る
正 じゃ…皆ここに泊まんの？
麻衣 うん
正 いつまで？
稔 あの人が死ぬまでだろ
正 …誰？
稔 (笑って)子供2号
正 へえー
稔 俺はこんなとこ泊まんねえけどな
正 ふーん
克巳 …迷惑だと思っけど
正 いやいや、そんな…ここは別に俺の家じゃないんで
麻衣 正の家だよ
正 そうかな
麻衣 うん、ずっと正の家
正 (笑う)
正と麻衣、スケッチブックの絵を見始める
間
美奈 麻衣ちゃん、勉強頑張ってる？来年受験でしょ？
麻衣 …受験はしないから
美奈 どうして？高校行かないの？
麻衣 はい
美奈 そうなの？
麻衣 はい
美奈 じゃどうするの？
麻衣 卒業したら結婚するから…働いてお金貯めないと
克巳 え？
美奈 本当に？
麻衣 (頷く)

克巳 麻衣ちゃん…？

麻衣 ずっと待ってたから

美奈 待ってたって…じゃ相手も？

麻衣 はい、お父さんも麻衣の好きにしろって

克巳 そういうことはね、急ぎたくなる時もあるかもしれないけど…でもこれからの人生も長いわけだし…

麻衣 決めてるから…（正を見て）16になったら正のお嫁さんになるって…え

一同言葉を失う

音楽

暗転